

政策評価調書(4年度実績)

政策名	生涯にわたる力と意欲を高める「教育県大分」の創造	政策コード	Ⅲ-1	関係部局名	教育庁、企画振興部、福祉保健部、生活環境部、商工観光労働部、警察本部
-----	--------------------------	-------	-----	-------	------------------------------------

【Ⅰ. 政策の概要】

未来を切り拓く力と意欲を身に付けさせる教育の推進や、世界に通用する「グローバル人材」の育成、いじめ・不登校対策の充実・強化、学校・家庭・地域との協働など、学校教育の充実と生涯を通じた学びを支援するとともに、青少年の健全育成やひきこもり支援、多様な行政課題の解決に向けた県内外大学等との連携を進める。

【Ⅲ. 政策を構成する施策の評価結果】

施策名		指標評価	総合評価
1	子どもの力と意欲を伸ばす学校教育の推進	概ね達成	B
2	グローバル社会を生きるために必要な「総合力」の育成	達成	A
3	安全・安心な教育環境の確保	概ね達成	B
4	信頼される学校づくりの推進	概ね達成	B
5	「知の拠点」としての大学等との連携	達成	A
6	青少年の健全育成	達成	A
7	変化の激しい時代を生き抜く生涯を通じた学びの支援	著しく不十分	C

【Ⅴ. 政策を取り巻く社会経済情勢・今後の動向】

本県の子どもの学力は、基礎的・基本的な「知識及び技能」の定着及び「思考力、判断力、表現力等」の向上については、一定の成果をあげているが、「学習意欲」については、小・中・高等学校を通じて課題が見られる。人口減少・少子高齢化、急速な技術革新、グローバル化の進展など変化の激しい時代を生きる全ての子どもたちに、未来を切り拓く力と意欲を育成する教育を着実に推進していくことが重要である。

ICTなどの技術革新は目覚ましく、超スマート社会の到来が予想されていることに加え、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、国のGIGAスクール構想の前倒しによる児童生徒1人1台端末などの導入が進んだことから、これら先端技術を効果的に活用した新しい教育の実践が求められている。

急速なグローバル化の進展に伴い、世界に通用するグローバルな人材の育成が求められており、国際交流、異文化理解、英語力の継続的向上が必要である。

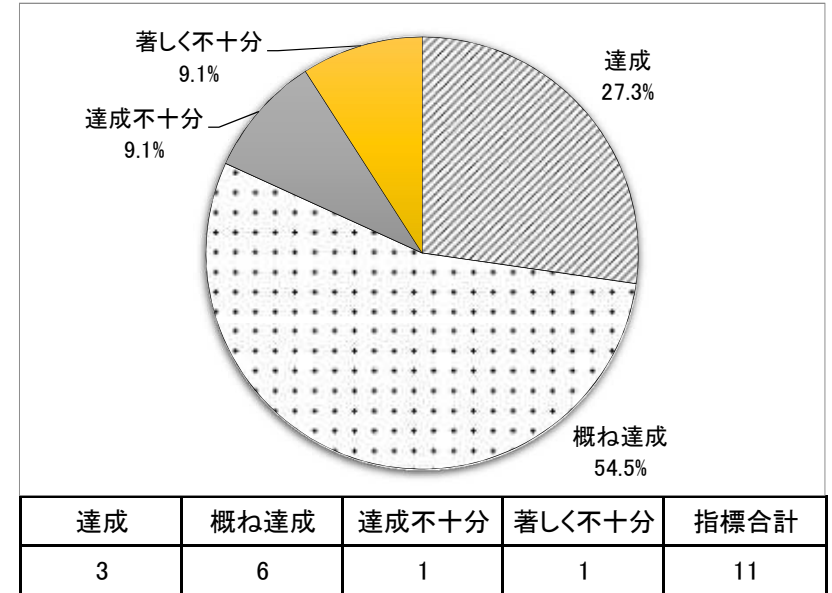
いじめ等の問題行動や不登校を未然防止するための「魅力ある学校づくり」の推進や長期不登校児童生徒の学校以外の場における教育機会の確保が求められている。

大学教育改革が進められているなか、高等学校までの学校教育においても、新学習指導要領の全面实施や大学入学者選抜に関する変更を踏まえ、予見の困難な時代の中で新たな価値を創造していく力を育てることが必要となる。

県内12の大学等、行政、経済団体等で設立した「おおいた地域連携プラットフォーム」では、産学官が連携し、地域課題の解決を担うなど、より積極的な役割を果たすことが期待されている。

県民の学習への欲求は多様化・高度化しており、ライフステージに応じ、多様な課題に対応した学習機会を提供することが重要である。

【Ⅱ. 構成施策の目標指標の達成状況】



【Ⅳ. 評価が著しく不十分となった指標】

指標名	達成率
公立図書館の利用者数(万人)	68.0%
<p><著しく不十分となった理由> 新型コロナウイルスの影響による利用の制限などにより、目標値を達成できなかった。 公立図書館の利用者数については回復傾向にあるが、読書イベントの開催、宅配貸出や電子書籍等の非来館型サービスの取り組みをさらに広げるにより、多様な利用を促進する。</p>	